

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000530		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム あしきた		
所在地	熊本県葦北郡芦北町芦北2015-6		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには消防署、役場、警察署、セブンイレブン等があり、3号線沿いでもあるので立地条件は良いです。天気の良い日には窓から暖かい日差しが入る為、冬は気持ち良く日光浴が出来ます。庭の木には鳥がとまり、春になると美しい声で鳴きます。畑には季節の野菜を植え、利用者様と共にその成長を楽しむ事が出来ます。ホーム内には手作りの品やご家族から頂いた飾り物などが飾ってあり、明るく家庭的な雰囲気です。職員は利用者様に常に笑って過ごして頂けるよう、笑顔を大切にしながら会話をしています。季節毎の花や景色を見にドライブにも出掛けています。職員がみな団結し、相談し合いながら日々の介護に力を注いでいます。これからもあしきたは理念の下、尊敬、個性、主体性を尊重して利用者様の生活を支えていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年の長きにわたる歴史は、地域の中にしかりと浸透し、人々の理解が入居者の生活の幅を広げている。ボランティアの来所や外出行事がホーム誌「あしきた通信」を通じて入居者の生き生きとした笑顔を発信している。地元ならではのつわぶきの皮むき作業や、あげびを種ごと食べるなど、入居者がこれまで培ってきた習慣を尊び、毎年訪れる彼岸桜見学に入居者の「ここはきたな〜！」の一言が職員の励みとなるなど互いを支え合う暮らしが定着している。地域との連携は運営推進会議にも表れており、行政や消防署からの意見や助言がホームの安定した日々や危機管理に反映されている。現在工事が進んでいる消防署の新庁舎がホームの道路向かいに完成することで、更なる安心に繋がる事が期待されている。職員は自らの言動が入居者に与える影響について、忙しくても忙しく見せない工夫や会話一つも家族のような雰囲気になると同時に、言い合いにも発展することを念頭に置き入居者と関わるよう日々努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の送り時に貼ってある理念を各人読んでいる。その他の具体的なケアについてはカンファレンス時に意見の統一を図るようにしている。地域に密着したホームの理念を作り、取り組んでいる。	開設から15年の歴史は地域社会にしっかりと受け入れられており、運営推進会議等を通じホームの姿勢を更に発信している。地域密着型の事業所として、地元へ愛され親しみのもてる運営を心掛けているホームは、入居者とともに地域に出ることで様々な関わりを持ち、活気ある日常が展開されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員は近隣の方への挨拶を常に心掛けている。また、地域の清掃作業に参加するようにしている。	ホーム通信で入居者の生き生きとした表情を地域へ向けて発信し、一斉清掃への参加や、防災訓練時の近隣への事前告知など地域の一員として活動している。古くから続く神社行事、春の花見の季節には職員が花の咲き具合を観察したうえで出かけており、毎年の恒例行事となっていることから、入居者の「ここは来たな〜！」の、嬉しい一言が職員の励みともなっている。また、中学生のナイスライの受け入れや、ボランティアの来所も入居者の生活に彩りを提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事には参加し、地域の方々との交流が深まるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況報告及び他の委員からの質問、意見、要望を受けサービスの向上につなげています。今年度から同じ地区にある同系列のGH千花と合同で行っている。	年6回の会議のうち3回は現在、法人が運営するグループホームとの合同開催となっている。双方のホームを会場とすることで入居者の様子を確認し、互いの情報を共有してホーム運営に反映させている。行政をはじめ消防署や地域・家族の代表者が参加し、地元色の強い会議となっている。行政からの自然災害(台風など)への注意喚起や助言、消防署からの避難訓練に関する指導、地域代表者による情報の紹介など、各出席者の発言が明確に記録されている。	会議内容は家族の面会時に話したり、書面を希望する家族には議事録を見てもらうことで共有の機会としている。今後も参加できなかった家族への情報提供の場として、面会の機会が活用されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報提供書等も役場に申請し貰っています。ケアに関する事も必要時には提供しています。町主催の研修会にも参加しサービスの向上に活かしています。運営推進会議にも1名参加していただいています。	行政担当者が毎回運営推進会議に参加しており、丹生居者の様子を実際に見てもらいながら運営状況を発信し、必要な意見や提案を受けている。管理者は書類提出や入居者の相談事で役所を訪れ、早めに対応することで入居者の生活の安定に繋がるよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施しており、職員共有認識を図っています。利用者様の状態を把握する事で自由な生活を支援しています。	法人の拘束委員による勉強会に年2回、委員会には毎月参加する他、ケア会議の中や日々の申し送りなどでも事例を通し、拘束ゼロへの意思確認の機会を持っている。その中で管理者は自分たちだけが入居者を見ていられるのではなく、入居者も常に職員を見ておられることに触れ、職員の言動の一つひとつが入居者の日常にどれだけ影響しているのかについて話をしている。また、職員は慣れ親しんだ芦北弁を使いながら会話し、時には入居者に教わりながら対応している。	今後も職員がゆとりをもって働ける環境を継続し、管理者の語る、「普通に接すること」の重要性を課題として、ケアに努められることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会にも参加し虐待がないよう注意し防止に努めています。職員全員が意識を持って取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会、町等が主催する勉強会等に参加しています。法人内でも勉強会があり参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際等について詳しく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とはいつでも話せる関係であり、意見、不満等聞き、必ず職員で話し合い運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。面会時は家族とコミュニケーションをとり意見や要望を聞いている。	家族の面会時には入居者の今の様子を伝えながら、ホームへの意見や要望をもらうよう働きかけている。遠方の家族には“あしきた通信”で、入居者の現状を発信しながら、電話で意見を確認している。リビングに集う入居者は自由に思いを語られており、必要な時には個別にゆっくり話を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、先生、訪問看護主任を交えた運営会議の席で意見や提案を出し合い、ホームの運営に反映させています。	職員のケアの統一を図り、「報連相」の徹底と、職員意見の反映に努めている。まずは職員一人ひとりの気持ちの持ち方がケアに直結するものとして、普段から何でも言えるホーム作りを心掛けている。離職の少ない職場環境は、入居者との距離も近く、会話の弾む食事風景もホームの日常となっている。運営者は運営推進会議やホーム会議にも参加し、入居者や職員の話聞きながら、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休産後福利厚生が確立しており、継続して働ける事で離職防止になっている。職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせる労働環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会、町主催の研修やリーダー研修会等全職員が参加出来るような体制を作っている。研修報告は毎月の全体会議の時行っています。資格取得に向けて職員常に頑張っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの城南地区ブロック会議に参加し情報交流に努めています。同法人同士の交流や近隣のグループホームとも交流して質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様にはそれぞれ担当の職員がいる為、担当で色々なことを尋ねたりしてコミュニケーションをとっています。担当で対応できない時には全職員で検討し受け止められるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に利用者様の事を話したりご家族の方に心配等はないか聞く機会を作り、ご家族からの相談をゆっくり聞くようにしている。話を聞く事で次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの相談があったときには職員で話し合い状況を確認しながら改善に向けた支援の提案をし必要なサービスにつなげるようにしている。場合によっては法人の支援相談員に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識は持たず利用者様が出来ることはしていただき、出来ない所を助ける。このことを大切にしています。利用者様と職員が共同しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告、相談している。本人様の希望などを家族の方に話すようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は関係が途切れないように地域に利用者様を連れてドライブに出掛けるような支援に努めています。面会時には利用者様の居室でゆっくりと話が出来るように支援しています。	入居者は地域資源を活用し馴染みの商店での買い物、古くからの祭りなどへの参加や、顔見知りとなった母体医療機関の受診に出かけている。家族の協力により週末の外出や外泊なども実現しており、面会時にはリビングや居室で家族がゆっくりできるような環境を整える工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に心身の状態や気分を把握し、感情等の変化を見逃さないよう、注意し見守っている。毎日のおやつや食事の時間など職員も一緒に多くの会話を持つように努め、利用者様同士の関係が円滑にいくように働きかけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続が損なわれないように、生活環境、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかな連携に心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を決めている為、利用者様からの希望や意向を担当職員の意見を基に聞いている。そして情報の共有化に努め、利用者様本位のケアに反映させています。	入居者の意向は普段の関りの中から引き出しており、「こんままでよかよ〜！」の一言はプランにそのまま表記されている。発語困難になられた方にも普段通りに話しかけながら、問いかけにうなずかれたり、笑顔で返されるなど表情や反応を見ながら本人本位に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話や前施設からの看護サマリー等にて経過の把握に努めています。センター方式による家族の方より記入頂いた利用者様の状態の把握にも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康チェックを行い、利用者様の健康把握に努めています。体調の変化には職員が常に注意しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様等に要望を尋ね、その後カンファレンスを行い介護計画を立てています。担当よりアセスメントが記入されている為、職員の意見の反映されたプランが出来ています。	計画作成担当者はケア会議や普段の情報から入居者の意向を確認し、本人・家族の希望する内容をプランにあげている。職員の「ここだけの話」から引き出される入居者の本音はプランに反映され、ホームでの暮らしを支えている。入居者の自信に繋がるような排泄支援や調理への関りなど、できることでホームの一員となって力を発揮してもらおうような内容が盛り込まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護保険の更新時期、半年の定期的な見直しには必ず担当者会議を開催し、ご家族の意向や担当の意見、利用者様の要望等を状況及び今の現状に即した見直しを行っています。利用者様の情報は常に職員全員で共有し介護の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、一人一人の満足度を高めるよう努力しています。母体が病院の為医療との連携により、受診、入院、病気等の早期発見に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議には、消防署、役場、区長、民生委員の方達と意見を交換するようにしています。年2回の避難訓練には消防署及びQネット、地域の方々に参加していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母胎医院がかかりつけです。その為日常的な受診や緊急時対応、夜間の往診等、適切に医療が支援されています。利用者様の状態報告は常にホームの医師である理事長及び訪問看護に相談報告しています。3か月毎の定期健診実施しています。	本人・家族の了承の下母体医療機関をかかりつけ医としている。定期受診の他、緊急時や夜間対応など状態変化時も速やかな医療支援は家族の安心となっている。職員は日常の関わりの中で、気になることがあれば協力医や訪問看護に連絡を取り、指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師と常に連絡を取り相談等しています。週1回の訪問看護にも利用者様の状態報告をし、早期発見に取り組んでいます。24時間対応にて連携可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母胎の医院がかかりつけ医の為、常に連絡を取り合っています。利用者様が入院、退院される時も早めに連絡し合う等連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族に必ず意見を尋ねています。状態変化時にはご家族と相談し、かかりつけ医との連携を図っています。併設に老健がある為医療行為が必要になる時には入院等の検討を行っています。利用者様やご家族の意向を踏まえ随時意思を確認しながら取り組んでいます。	入居時にホームに出来得る終末期支援について説明を行っている。また、継続して医療支援が必要になった場合は、母体医療機関への転院や老健施設の存在も伝えている。この1年でギリギリまでホームで支援し、急変で医療機関へ移られた事例がある。看取り支援については、これまで母体医療機関主催の研修会に参加している。	今後も入居者の今を大切にされたホームに出来得る最良の支援について共有しながら、ホーム内でも重度化・終末期支援に関する研修会の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に研修会に参加し応急手当や初期対応の訓練を実施しています。緊急時対応マニュアルも作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル等作成し年2回、消防署立会いの下利用者様と一緒に避難訓練を行っています。通報、避難誘導等利用者様、職員だけでなく、地域の方々にも参加して頂いています。夜間想定での訓練も実施しています。	災害訓練は昼・夜を想定し実施しており、訓練前には地域へも告知と参加・協力を依頼している。近くにある系列のグループホームと合同で開催するなど、毎回、消防署のアドバイスを受けながら有意義な訓練が行われている。食備蓄は実際食べる機会も持っており、職員手作りの防災頭巾も準備している。法人の取組として、防火管理者資格の取得は継続されており、職員への災害対策への意識を高めている。	災害訓練についてはホーム便りで伝えており、今後は訓練への参加についても家族への働きかけ期待したい。また、自然災害についても机上を含め、風化させない取り組みを期待したい。備蓄についてはリストの作成も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様、一人一人の事を把握し利用者様が分かりやすく親しみやすい方言を交えた話し方で会話をしています。居室に入る時には必ずノックするか声掛けしています。個人情報の守秘義務は職員十分に理解しています。	一人ひとりの入居者を知り、失礼のない形で方言も交えながら普通に接していくことが尊厳に繋がっていくと管理者は語っている。呼称は苗字で対応としながらも同姓の方には下の名など、状況に応じている。ホームの日常は基本的な流れはあるが、起床や食事、入浴など個々の体調や要望などを考慮し支援しており、居室も自宅に近い環境を作り安心して過ごしてもらえるようにしている。携帯電話を持たれている方も現在2名おられ、自由に家族との会話の時間を持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望等はよく聞いて本人様が納得されるよう説明し支援しています。利用者様の状態に合わせ本人が答えやすいよう、話をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、きっちりとした時間は決めていません。利用者様のペースや体調を考慮しながらお気持ちを尊重した対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替え等出来る方は本人様の意思で決めて着替えもしておられます。自己決定が難しい方には職員が見守り、介助しています。乳液等使用する方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームにある畑で採れた野菜が食卓に上がる事もよくあります。その都度収穫する為新鮮で皮剥き等手伝って頂く事もあります。利用者様の状態に合わせ、刻み、ミキサー、普通食と提供の仕方も工夫されています。	ホームの食事は献立優先ではなく、差し入れホーム菜園で収穫した野菜などを活用しながら、それぞれの職員が家庭的な味を大切に調理している。また、直接地域物産館やスーパーなどに出かけ、新鮮な食材を吟味して購入している。入居者の中には料理が得意だった方も多く、本人の自信にも繋がるような出番を作っている。職員は入居者と思いを共有しながら一緒に食事を摂っており、方言も飛び交いながら和やかな食事の時間であった。	旬の食材を活かした日々の料理や嚙下状態に応じた食事支援などホームの取組が確認された。食材購入から取り組む手作りの食事支援は大変な面もあると思われるが、入居者の楽しみな食事が継続されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調と1日の摂取量は把握しており、食事量も個々に合わせて確認し、利用者様の好きな食べ物や食べやすいものを提供しています。その日の状態に合わせ、いつもとは違う形態で提供する事もあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは洗面所にて行い、自力で出来る方には見守りや声掛けを行い、出来ない方には口腔清拭にて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、利用者様の状態に合わせ、パットも使用しています。自尊心に配慮した対応を心掛けています。	個々の状況に応じた排泄用品や声掛け・誘導を職員間で共有し、基本的にトイレでの排泄を支援している。便秘がちな方へも、食事や水分補給、運動により自然排便に繋がるよう努めている。トイレ内は清潔を心掛け、気持ちよく使用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘の方には十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供しています。Dr指示にて下剤服用の利用者様もおられますが、職員は出来るだけ自然排便を促す工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や体調に考慮しながらそれに応じて入浴行っています。希望に合わせたお湯の温度調節にも気を付けています。	基本的に週3回の入浴を支援しているが、毎日入りたい方には希望をに応じ、入浴を楽しんでもらっている。拒否があった場合は、翌日に変更するなど無理せず本人の要望に応じている。また、菖蒲や柚子湯の季節湯も継続して取り組んでいる他、バラ見学に出かけた際は持ち帰り、湯船に入れて香りや華やか雰囲気を楽しんでいる。	ミカンの皮やヨモギなどを使い、身近な材料で薬草風呂にすることで、楽しい入浴支援に繋がるものと思われる。職員のアイディアに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に応じて対応していますが、なるべく日中の活動を促して生活リズムを整えるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに綴り、職員が内容を把握出来るようにしています。利用者様に状態変化がみられた時にはかかりつけ医と連携をとり、状態に合わせた薬を処方してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな方には、洗濯物畳みやテーブル拭きなどを頼み、必ずお礼の言葉を伝えるようにしています。好みの歌を流したり、一緒に歌ったりしています。廊下の先にソファを設置して気分転換できる場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中は医院へ電気治療に。天気の良い日にはホームの中庭で外気浴やピクニック。季節に応じた外出の機会を設け、楽しんでいただけるように努めています。	天気の良い日は庭先で日光浴を兼ねてお茶の時間を楽しんだり、畑の野菜の成長や収穫時期を皆で相談している。また、法人の車両を活用しながらドライブや桜・バラなどの花見に出かけており、特に御立岬の桜では、職員が開花時期を確認して実施している。受診や外泊、週末に帰省し温泉入浴に出かける方など家族の協力が得られている。	毎年同じ場所に花見に出かけていると、「前に来たごたる〜！」と、発せられた入居者の一言に、職員も外出支援の喜びを感じている。今後も外出の計画を家族へ早めに伝えながら、一緒に楽しめる機会が増えていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を持っておられる方もいらっしゃいます。利用者様より預かっているお金や、ご家族から預かったお金は事務所で管理しています。現在、生活保護の支給を受けていらっしゃる方が2名おられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話は自由に掛けていただいています。ご家族からの電話の取次ぎも出来ます。年賀状の支援もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の花を飾ったり、利用者様が作られた作品を飾ったりしています。居室の入り口にはのれんを下げ、プライバシーに配慮しています。ご家族が本人の好みの物を飾って下さったりもします。写真を見るのが好きな方がいらっしゃるので定期的に入れ替えながら沢山の写真を飾っています。	玄関先プランターの苗植えやホーム内の壁面は、入居者と一緒に季節ごとの飾りつけを施している。また、外出やイベント時の写真の掲示は家族も楽しみにされており、担当職員は特に直近の物を掲示し季節を感じてもらえるようにしている。既存の建物であり、使い勝手など十分でない事も、職員が工夫しながら家庭的な環境になるよう努めている。特に台所に立つ職員の姿や匂い・音はすぐに伝わり、入居者との会話のきっかけにも繋がっている。	洗面所では自立で歯磨きや手洗いなどを行われる方もあり、今後は窓の棚に置かれた洗剤やシャーパーなどについては、保管場所の検討が必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に置いてあるソファは利用者様が落ち着いてくつろげるような配置を職員が常に考えて取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族より思い出の品や本人が希望される品を持ち込んでいただき、居心地の良い空間にしている。利用者様には担当の職員がいる為アイデアを出しあたたかな雰囲気作りを心掛けている。居室でテレビを観て過ごされる方や、好きな芸能人のポスターを飾っておられる方もいらっしゃいます。	入居当初は安全面から物品をあまり置かず、徐々に家族と相談しながら環境作りを進めている。家具やテレビの持ち込み、ラジオを聴きながら休まれる方もおられる。毛布がずれないようにベッドに固定したり、本人の希望で家族により半サイズに縫われた寝具など、安眠に繋がる支援が行われている。居室内には季節にそぐわないものもあるが、本人が望まれるものであれば、尊重して配置している。ADLに応じて、ベッドの変更や部屋の移動も本人や家族に相談しながら実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせた支援を行っています。ベッドの高さを調整したり、シルバーカー使用の方がスムーズに動けるような空間作り、手の届く所に使用される物を置いたり、安全に「できること」をしていただけるように工夫しています。		